

2011年度 清教学園幼稚園 <学校関係者評価> 報告

清教学園幼稚園 学校関係者評価委員会

これは、清教学園幼稚園から提出された「2011年度清教学園幼稚園自己評価報告書」にもとづいて、当委員会（学園評議員、および学校アドバイザーによって構成される）が、幼稚園運営の改善を図るために実施した「学校関係者評価」を報告するものである。

☆評価内容に関して

- 「神様と人々に愛される子ども」を育てる幼稚園として、運営方針に関する評価において「キリスト教主義教育を、日頃の保育から感じ取ることができる」という声がますます多くなっていくことが最も大切なことである。今後も引き続き、日々の教職員研修を重ねつつ、キリスト教主義の雰囲気が漂う園作りに努めていただきたい。
- 食育を重んじる時代背景の中、とりわけ給食業者の選定を迅速に行い適切な対応を進めることができたことは大いに評価できる。お弁当から伝わる保護者からの愛情のかけがえのなさをしっかりと心にとめる一方で、園として食育に関する認識の高さもさらにアピールしたいところである。今後は試食会等も積極的に取り入れつつ、園として、食育に関する考え方を本格的にまとめていくのがよいと思われる。
- さまざまな声をいただきやすい徒歩通園をめぐっては、バスの運行経路に関する検討を引き続き重ねると同時に、他方で幼児期における体力増強の重要性に関して適切に説明を行い、保護者の理解を募っていきたいところである。
- 時代の変化によって、これまで当然と思われていたことに揺らぎが生じている事項もあるが、幼児教育として大切なことは何かをきちんと捉えつつ、保育活動を進めてもらいたい。

☆アンケート内容に関して

- 昨年度に実施したアンケート結果の分析を踏まえ、各設問が踏み込んだ内容になっており、改善が図られたと言える。
- 設問内容の改善を通じて、今後の取り組みに関する方向性を考える契機を得たと言える。今回の結果を今後の教育施策に生かしてもらいたい。

以上